



C.O.遺族要求の貫徹を期し、怒りを会社にぶつつけた集会。



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市不知火町2  
電話 ③3033番  
③3034番  
編集兼 山下 開  
発行人  
半年間1,200円 送料共

### 期手闘争は妥結

#### やっぱり平和協定が壁

炭労は、資本側から三十五万一千五百円を獲得して、期手手当闘争を妥結した。これは四十万円の分体系を改善することで、幾分な要求を四万八千五百円下まるも、りとも手当が全員に届くようので、従来にひきつづき大きな不満を残した。(なお、港務所も右と同額)

争を受結した。これは四十万円の分体系を改善することで、幾分な要求を四万八千五百円下まるも、りとも手当が全員に届くようので、従来にひきつづき大きな不満を残した。(なお、港務所も右と同額)

三池労組はもとも五十万円の分でついに支給を強行することに要求を主張しただけに、せめて配している。

ここでも、組織の分裂が大きく壁となっていることを思い知らされた。とくに三池新労組が会社と結んでいる平和協定が、最大の障害になっていることを示した。その障害が何にもまして重要な課題となっている。

## 要求貫徹めざし座り込む

## 全員を結集し闘おう

## 見直すべき石炭政策

C.O.遺族要求貫徹決起集会は七月三十日午後五時半から三川鉱正門前で開かれ、同時に東京の三井鉱山本社でスタートする団体交渉でC.O.患者・遺族の要求を貫くため闘争決意を固め、集会終了後たんに現場で座り込みにはいった。なおこの夜C.O.患者、その家族、遺族、それに三池主婦会代表ら二十人がいそぎ上京、団体交渉と呼応しながら世論喚起のため行動にはいった。

決起集会には組合員・主婦会員を中心し、そのほか大牟田・荒尾の両地評やその加盟組合、社会党その他の民主団体の代表も加わり約七百五十人が結集した。

たまたまその日問題の三川鉱の坑底で、自然発火の徴候をさいわいにも事前に察知、発火防止のための注水作業が打ち続くなかでの集会となったことから、結集した者は改めて、集会所C.O.患者も遺族の一部の人びとはかりでなく、働く者すべてにとって切実な意義をもつものだとしようことを考えざるを得なかった。

この日の発言にもあったようにこれという問題点もなぞその坑道でさえ、自然発火の徴候がでくるといふことは、石炭見直しとくしなからず、それはただ石炭を掘るために労働者を過重労働に狩り立てることではいかなく、そのためなおかす資本がいかに保安対策を重視しているかを証立して、ひ



少年事 名、禁治産、準禁治産の宣告、未成年者の後見人の選任、相続の放棄などを「甲類審判事件」といいます。後者の場合は前提として、当事者の話し合いによって解する家庭裁判所です。

### 家庭事件についての審判

に起る事件、すなわち家庭事件についての審判は家庭裁判所で取り扱います。しかし、審判にあたる事件であっても、当事者が話し合って取り決めることができるなら、それ優先させるものがあります。

遺産分割、相続人の排除、親族間の扶養などを「乙類審判事件」といい、改姓、改記入し、若干の手数料と、若

## 平和行進大牟田を出発 核兵器の完全禁止を

### 脅威加わるなか被爆者守り

七月二十八日、大牟田市役所前で決起集会が開かれ、全参加者は改めて平和を守るために闘いを強める決意を固めた。

なほ行進団は、大牟田市民の平和への提言を発表、健康状態が日々悪化する被爆者に終戦はないのに、原子力の平和利用に名を借りた核の脅威が進んでいることを指摘、①大陸棚協定反対、②核兵器の完全禁止、③核絶対反対、④被爆者援護法の制定、⑤原水禁運の統一を誓った。

また荒尾では、同時熊本から迎えた平和行進団と合同で、同市役所前で決起集会、終って労働会館まで行進。平和、核廃絶のため闘うことを誓った。



いよいよ行進団大牟田を出発